白川氏　香川県医労連の定期大会と懇談会に参加

日本共産党の白川よう子衆院四国比例候補は5日、高松市で香川県医労連の定期大会に参加し挨拶しました。

白川氏は、医労連がたたかう労働組合として春闘でもストを前面にすえ、賃上げ回答を引き出した運動に敬意を表明。「皆さんの団結した運動や声こそが現実や政治を動かしていく力と確信しています。大軍拡でなく社会保障費を拡充する政治へ大本から変えるため、ご一緒に力を合わせてたたかっていきましょう」と訴えました。

白川氏は、党政策の1日7時間・週35時間への労働時間短縮を目指す賃上げと一体の「自由時間拡大推進法」や、「年金削減、介護の危機、医療改悪をくいとめ、高齢者の人権と尊厳を守るための緊急提言」を紹介。「残業や夜勤などの仕事、育児、家事などに追われ睡眠時間を切り崩す生活ではなく、働くひとが人間らしく生きられる自由な時間を持てるよう全力を尽くす」とのべました。

香川1区たなべ健一候補　つどいや街頭で訴え

共産党亀阜中央支部では7日、たなべ健一日本共産党香川1区候補を迎えて、目前の衆議院選挙を頑張る決意を固める集いを開きました。

たなべ候補は自ら手作りしたパネルを示して「最低賃金時給1500円」「消費税減税」「大学学費半減・奨学金返済半額免除」「外交不在の大軍拡反対」など共産党の政策を分かりやすく解説し、「古い自民党政治をチェンジするカギは共産党の躍進だ」と訴えました。

参加者からは「大変よく理解できた」「東部地区委員長として頑張るたなべ候補の話を聞いて【3面につづく】

気候変動とエネルギー転換

①猛暑と地球温暖化　柏 秀樹（自然エネルギー100％社会学習会代表）

今年6～8月は、昨年と並んで統計開始(1898年)以来の史上最も暑い夏でした。香川県の今年6～8月の平均気温は、高松：27.2(+0.7)度、多度津：26.5 (+0.6)度(気象庁資料：カッコ内は平年差)。

気象庁は、昨年に続き今年も異常気象で、特に7月の高温は地球温暖化がなければほぼ起こり得なかったとしています(9/2発表)。6～8月に猛暑日(最高気温35度以上)を記録したのは延べ8821地点で、過去最多(23年:6692地点)を大きく上回りました(気象庁9/2)。

この猛暑によって、野菜や果物などの農作物が育たなかったり品質が落ちたりする被害が、各地で出ています。苺の葉が日焼けで枯れ、クリスマスケーキに載せる苺を十分に出荷できるか、懸念されています。

猛暑は、日本だけでなく世界全体の問題。今年6～8月の世界平均気温は、1940年の観測開始以来、最高を記録し、昨年に続いて2年連続で最高記録を更新(コペルニクス気候変動サービス2024/9/6)。下図のように、昨年から今年にかけて、世界の平均気温上昇は、一段と加速しています。

【近年～直近1年間の世界の年平均気温：コペルニクス気候変動サービスの報告より】

※産業革命前(1850～1900年)より何度高くなったか？

◆2022年1年間：＋約1.2度高かった
◆2023/1～/12：＋1.48度高かった
◆2023/2～24/1:＋1.52度高かった

《2023年2月以降、直近1年の世界平均気温は「1.5度」を超え続けている》

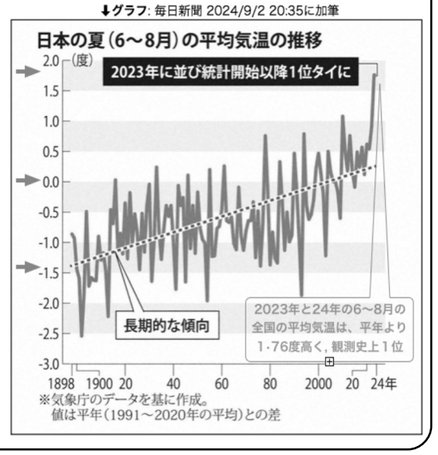
◆2023/3～24/2:＋1.56度高かった
◆2023/4～24/3:＋1.58度高かった
◆2023/5～24/4:＋1.61度高かった

《2023年5月以降、直近1年の世界平均気温は「1.6 度」を超え続けている》

◆2023/6～24/5:＋1.63度高かった
◆2023/7～24/6:＋1.64度高かった
◆2023/8～24/7:＋1.64度高かった
◆2023/9～24/8:＋1.64度高かった
◆2023/10～24/9:＋1.62度高かった

《直近1年間の1.5度超えは、今年1月から9月末まで9か月続いている》

↓グラフ：毎日新聞 2024/9/2 20:35に加筆



【2面から】白川よう子候補とともに是非国会議員として活躍できる人物だと確信した」などの感想が出されました。

亀阜中央支部は、毎週水曜日にたなべ候補とともに中央公園東側の中央通りで朝宣伝をしています。通勤通学の方々に共産党への支持を呼び掛けています。

白川氏が各地で集い

白川よう子衆院四国比例候補は21日、四国4県の日本共産党が衆院四国比例での議席奪還をめざす「総選挙勝利四国キャンペーン」で民生同盟香川県委員会が主催の、「共産主義と自由資本論を導きに」の学習会に参加しました。

白川氏は、「子育て三つのゼロとして子どもの医療費・出産費用・学校給食の無償化を公約で掲げる総裁選候補者まで出てきた。これは共産党が掲げてきた政策でこれまで自民党政治が反対し続けてきたものだ」と訴え。

「マスコミが総裁選でジャックされているが、裏金・統一教会の問題には全員後ろ向きだ。正社員の首切りなど様々な政策が語られるが、共通して憲法改正が語られている。自民党の表紙が変わっても自民党政治そのものは変わらない」と強調しました。

また、「賃上げと一体の7時間労働に労働時間を短縮する政策を田村委員長が発表したが、今日の学習内容はいまの私たちが生きる社会と地続きの話だ」と優しく解説しました。参加者からは「『共産主義』**【4面につづく】**

日本共産党衆議院香川県小選挙区事務所のご案内

日時：10月15日～27日　8時～20時まで

◎たなべ健一　衆議院香川1区候補事務所：高松市木太町5014－9
◎石田まゆ　衆議院香川2区候補事務所：坂出市久米町1丁目1－19
◎ささい孝志　衆議院香川3区候補事務所：丸亀市北平山町2－10

勇気りんりんエッセイ

四国ブロック国政対策委員長　白川よう子

いよいよ総選挙。香川県議を辞職して8年、ずっと四国中を駆け回ってきました。どんな小さな村も、どんなに遠いあの町も、やってられないと思うほどの猛暑の中も、芯まで凍えるような寒い日も、何度も何度も伺って、四国で暮らす皆さんの声をお聞きしてきました。その声を国政と一直線に繋げて結ぶ、総仕上げの時です。

医療や介護の現場の皆さんと懇談した時に、コロナが5類になっても現場は落ち着くこともなく、さらに深刻な状態になっている。目の前の命を救うことで頑張り続けてきたが、もう頑張れないと辞めていく同僚たち。再雇用職員まで月に9回以上の夜勤に入る現場の実態。現場は崩壊直前です。

新型コロナ感染拡大の中、訪問ヘルパーさんは、陽性で在宅留置きになった利用者さんを決死の覚悟で介護に入り、利用者の命と暮らしを守ってきたが、この春からの報酬引き下げは裏切られたとしか思えない。いくら頑張っても報われない。四国中で介護事業所が一つもない自治体が広がっています。

四国で生きることはある意味覚悟が必要だと実感します。過疎、一次産業衰退、大地震や災害の恐怖、医療・介護・教育・公共交通などの崩壊、賃金格差…あげればキリのない不安が押し寄せてきます。でも私は四国が大好きです。ここで生きることに誇りが持てる政治へ！

「生きること　幸せになることを　あきらめなくていい社会」をつくる。政治家として、1人の人間として生きる原点がここにあります。